

1 磯城瑞籬宮

疫病から民を救った天皇の宮

第10代崇神天皇が営んだ宮。記紀によると、崇神天皇の時に発生した疫病が大物主大神のしたこととお告げを受けた天皇は、その子孫である大田垣根子を探し出しました。彼に託して三輪山に大物主大神をお祀りし、疫病がおさまったとされます。

伝承地：桜井市金屋 志貴御坐神社付近
アクセス：JR三輪駅から徒歩約12分



2 纏向珠城宮

相撲発祥の物語を伝える土地

第11代垂仁天皇の営んだ宮。記紀によると、垂仁天皇の時、野見宿禰と当麻蹶速とが天皇の前で初めて相撲をとったとされ、相撲発祥の物語として知られています。ここから東にある相撲神社は、その相撲が行われた地として伝えられています。

伝承地：桜井市穴師付近(纏向遺跡内)
アクセス：JR巻向駅から徒歩約10分



3 纏向日代宮

古代の英雄倭健命所縁の地

第12代景行天皇が営んだ宮。記紀によると、景行天皇の時、皇子の倭健命が活躍したとされています。「大和は国のまほろば たたなづく青垣 山ごもれる大和しよし、命が節を得て亡くなる時に詠まれた歌の一節とされます。

伝承地：桜井市穴師付近(纏向遺跡内)
アクセス：JR巻向駅から徒歩約17分



4 磐余稚桜宮

「桜井」の名を生んだ雅やかな伝説

第17代履中天皇が営んだ宮。磐余市磯池で船遊び中に杯に桜の花びらが舞い落ちたことから、宮名を磐余稚桜宮としたとされています。桜樹を等弥郷の泉のほとりに植えたという伝説もあり、桜井の地名の起こりになっています。

伝承地：桜井市谷 若桜神社付近 / 桜井市池之内 稚桜神社付近
アクセス：JR桜井駅から徒歩約10分



5 泊瀬朝倉宮

大和朝廷の力を伸ばした力強い天皇

第21代雄略天皇の営んだ宮。雄略天皇の代には大和朝廷の勢力が全国に及んでいたとされています。記紀に記されている逸話や、万葉集の巻頭を飾る妻問いの歌には、国の礎を固めつつある雄略天皇の力強く自信に溢れた様子がうかがえます。

伝承地：桜井市黒崎 藤本付近(藤本遺跡)
*このほか、桜井市岩坂にも伝承地あり
アクセス：近鉄大和朝倉駅から徒歩約18分



大和しよし日本の国のふるさと桜井

「記紀万葉」が伝える 神話と伝承の地を探訪

奈良時代に完成したとされる「古事記」「日本書紀」「万葉集」。桜井に伝わる記紀万葉ゆかりの地を訪ねることで、古代から連綿と続く歴史の魅力を感じてみてください。



6 泊瀬列城宮

ヤマト王権の重要拠点の一つ

第25代武烈天皇が営んだ宮。宮のあったとされる初瀬谷は、大和の国から伊勢・東海方面へ通じる古代の主要道となっていました。谷の入口には、雄略天皇の泊瀬朝倉宮もあったとされ、ヤマト王権の重要な拠点の一つであったと考えられています。

伝承地：桜井市出雲付近
アクセス：近鉄長谷寺駅から徒歩約22分



7 磯城嶋金刺宮

国への仏教の伝来が記される

第29代欽明天皇が営んだ宮。日本書紀では、百濟の聖明王から仏像や経文などが献じられ、仏教がはじめて公的に伝えられたとされています。仏教の受け入れについては賛否があり、天皇は試みに大臣の蘇我稲目に仏像を授けて礼拝させました。

伝承地：桜井市外山 初瀬川南付近
アクセス：近鉄大和朝倉駅から徒歩約13分



8 詠語田幸玉宮

蘇我氏と物部氏の対立が表面化した時代

第30代敏達天皇が営んだ宮。記紀によると、仏教について崇仏派の蘇我氏と廃仏派の物部氏との対立が表面化し、物部氏から進言を受けた敏達天皇は、仏教を禁止して仏像や仏殿を焼くなどしたと記されています。

伝承地：桜井市戒重 春日神社付近
アクセス：JR桜井駅から徒歩約11分



9 倉梯柴垣宮

仏教の興隆と崇峻天皇暗殺の影

第32代崇峻天皇が営んだ宮。記紀には、蘇我氏と物部氏との対立が戦となった丁未の乱(物部守屋の変)が記されています。仏教が我が国に厚く受け入れられた結果、蘇我氏が大きな権力を得て、後に崇峻天皇が暗殺される要因になったとされています。

伝承地：桜井市倉橋付近
アクセス：JR桜井駅から徒歩約45分



10 磐余の邑

ヤマト王権の諸宮を伝える古代の地

磐余の邑は、桜井市の西部地域を指した古代の地名です。古代ヤマト王権の根拠地として、履中天皇の磐余稚桜宮、清寧天皇の磐余蕤栗宮、継体天皇の磐余玉穂宮、神功皇后の磐余若桜宮、用明天皇の磐余池辺双槻宮などがあったと伝えられています。

写真：「オーベルジユド・ふれざんす桜井」敷地内
アクセス：JR桜井駅から徒歩約40分

